

**多文化関係学会 2015年度 第14回年次大会プログラム**

**Japan Society for Multicultural Relations**

**2015 Annual Conference**

**大会テーマ:**

**グローバル世界と多文化関係—まちづくり、ひとづくりが拓く明日—**

**Global world and multicultural relations:**

**City planning and human resources development for a better future**

**2015年11月14日(土)・15日(日)**

**November 14 & 15, 2015**

**大会前日 11月13日(金)**

**プレカンファレンス・ワークショップ**

**Preconference Workshop November 13, 2015**



## ご挨拶

2015年度の年次大会は、岡山で開催します。山陽新幹線岡山駅、岡山空港、瀬戸大橋、山陽自動車道岡山インターなどがあって、交通は便利です。島影を望む風光明媚な瀬戸内で、豊かな文化と景色を愛でつつ、おいしい物に舌鼓を打ちにいらしてください。対話の進む未来志向の大会になるよう、多様な学術企画を揃えてお待ちしております。

「グローバル世界と多文化関係ーまちづくり、ひとづくりが拓く明日ー」をテーマに、研究の最前線を見渡していきたいと思えます。岡山は、国際貢献に力を入れている地域の一つでもあることから、地域企画の一つは、AMDA(アムダ)の特別講演です。災害や紛争発生時、医療・保健衛生分野を中心に緊急人道支援活動を展開する認定特定非営利活動法人で、世界30カ国の支部のネットワークを持って、多国籍医師団を結成しています。「救える命があればどこまでも」を合い言葉に、多文化の世界と繋がる話です。我々自身の研修も用意しています。

プレカンファレンスは、AMDA MINDSから講師を招き、国際協力・国際貢献活動の講義とワークショップです。「多文化社会における国際協力の仕事論」と題して、国際協力の現場で長年にわたって経験されてきた実例をもとに、よく直面する課題と、それを克服するための技能や手法を、講義とワークショップ形式で学びます。この半日体験は、我々の理論と実際をつなぐ橋渡しの好機となるでしょう。岡山はまた、地域中小企業の海外進出意欲が高く、地に足の着いた多文化共生を目指す地域でもあります。日本と海外の都市が直接つながり、世界のローカルとローカルが無数につながる、いわばグローバルな視点の持つ可能性に思いをはせてみたいと思えます。

社会学など様々な領域の研究者が集う学際的なシンポジウム「地域をベースに多文化共生を考える」、留学交流や留学生教育に接点を持つ研究者と対話するテーマテックポスターセッション「留学生とまちづくりの未来」、そして若手が気軽に参加して英語のプレゼン力を磨くラウンド・テーブル「英語で語る私の研究」など、研究を語り合いながら今後の発展の芽を育てる企画を用意しています。

研究発表の合間には、岡山の名産スイーツを楽しむティータイム交流会、岡山のB級グルメを取り入れた懇親会で、話の弾むひとときをお過ごしください。

そして何より、学会の年次大会は、皆さん自身の研究発表と学術的な議論が主役です。それが活気に満ちた空間を形作って、何度でも参加したいと思える私たちの学会ができていきます。岡山大会で、多文化関係学の手応えと明日への希望を見つけてください。

(大会準備委員会) 大会HP

<http://js-mr.org/taikai2015/>

## 大会参加者へのご案内

### 大会参加費（会員の事前払いは1,000円割引）

種別：事前払い（9月15日までに送金）/当日払い（9月16日以降に送金または当日支払い）

正会員 5,000円 / 6,000円

シニア会員 5,000円 / 6,000円

学生会員 2,000円 / 3,000円

非会員 7,000円 / 7,000円

非会員学生 4,000円 / 4,000円

### 懇親会参加費（会員の事前払いは500円割引）

種別：事前払い（9月15日までに送金）/当日払い（9月16日以降に送金または当日支払い）

正会員 4,000円 / 4,500円

シニア会員 4,000円 / 4,500円

学生会員 3,000円 / 3,500円

非会員 5,000円 / 5,000円

非会員学生 4,000円 / 4,000円

### プレカンファレンス参加費

1,500円（会員種別を問わず共通。事前払い・当日払いで共通。）

### ティータイム参加費

500円（スイーツとお茶。9月15日までの事前払いのみ。）

### 留学生参加費優待制度

以下のa)~c)の全ての要件を備えた留学生は、20名を上限に大会参加費を無料とします。

a) 岡山県外に在住する外国人留学生である。

b) 研究発表に参加する（筆頭発表者でなくても、発表者の一人でも対象となります）。

c) 大会参加のために、岡山市内の宿泊施設に宿泊する。

・会員、非会員を問いません。

・20名の定員を超えた場合は、発表要旨による審査を行い優れた発表の方を採用します。

・参加費は一旦払い込んでいただき、該当者には事前通知の上、大会当日に返金します。

## 発表者の方へのご案内

### ポスターセッション：発表各10分、全体質疑・ディスカッション40分

11月14日13時までに、所定の場所へA1またはA0版程度のポスターをご掲示ください。終了後は少なくとも14日17:20まで、できれば大会終了時まで、ご掲示ください。

### 口頭発表：発表20分、質疑10分

パワーポイント提示のためのパソコンをご持参ください。操作は事前にご確認ください。配付資料があれば、40部ご持参ください。

### ラウンドテーブル(ミニ発表)：発表10分・質疑5分・コメント5分程度

発表に必要な資料があれば、40部ご持参ください。

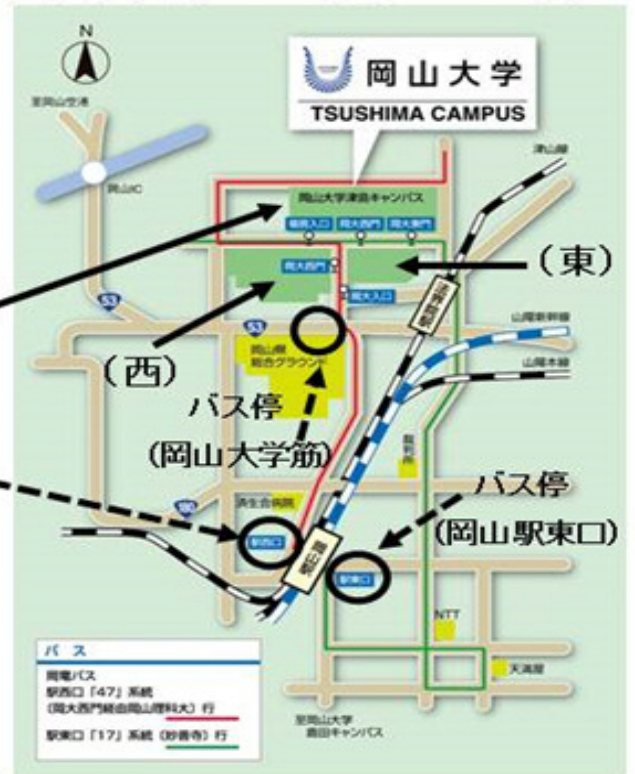
★**連名発表者の方**：大会当日に欠席される場合であっても、大会参加費はお支払いいただく必要があります。9月15日（火）までにお支払い頂けなかった場合は、大会当日用の料金となります。

# 大会会場への交通 アクセス

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access.html>

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号  
文学部・法学部・経済学部講義棟

## 津島キャンパスアクセスマップ

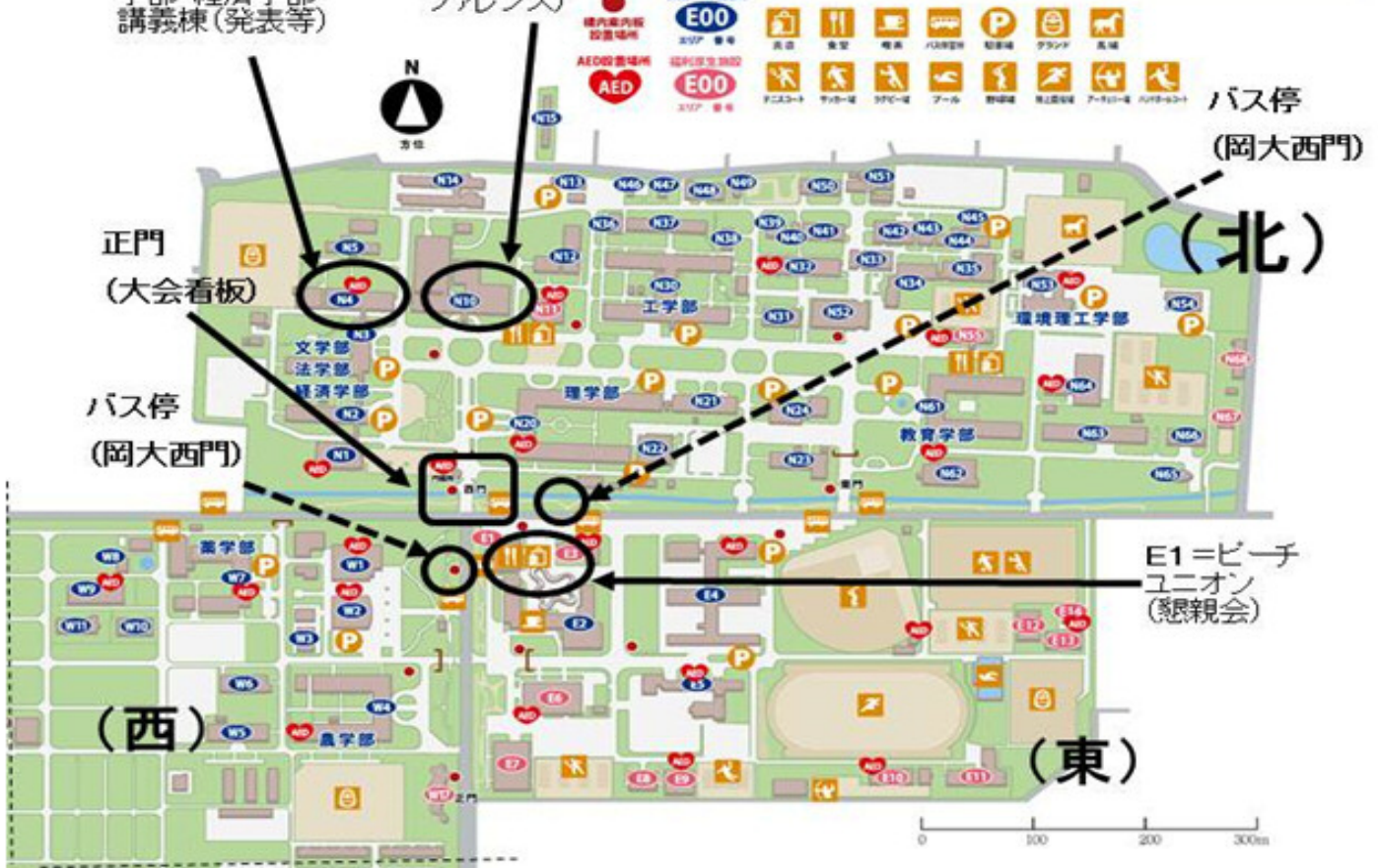


## 津島キャンパス(北)

## 津島キャンパス(北) キャンパスマップ

N4 = 文学部・法  
学部・経済学部  
講義棟(発表等)

N10 = 中央  
書館(プレカン  
ファレンス)



# 経路案内

用交通機関	経路等 津島地区
JR	岡山駅:西口広場2Fタクシー乗り場から約7分 津山線「法界院」駅:徒歩約10分
JR岡山駅 ↓ 岡電バス	岡山駅西口バスターミナル22番乗り場から 【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車 ↓ <b>お勧め</b> 「岡大西門」で下車 ※所要時間約7~10分
	岡山駅東口バスターミナル2番乗り場から【17】 【67】系統「妙善寺」行きに乗車 ↓ 「岡大西門」で下車 ※所要時間約30分
	岡山駅東口バスターミナル7番乗り場から【16】 系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き、【26】系 統「岡山医療センター国立病院」行き、【36】系 統「辛香口」行き、【86】系統「運転免許センター」 行きに乗車 ↓ 「岡山大学筋」で下車→大学まで徒歩 ※所要時間バス約10分 徒歩約7分
岡山 空港 (航空 機) ↓ 岡電 バス 中鉄 バス	岡山空港2番乗り場から「岡山駅西口」行きに乗車 ↓ 「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分。 ノンストップ便は「岡山駅」で下車、岡山駅からの 各種交通機関を利用
山陽 自動 車道	岡山ICで降り、岡山市内方面へ国道53号線を 直進、右手に岡山県総合グラウンドの木々が 見え始めた約600メートルで岡山大学筋に。 岡山大学の標識を左折すれば、時計台が 正面に見え、岡山大学に到着します。

【47】系統 岡山大学-岡山駅  
バス時刻表(土日) ※最も便利です

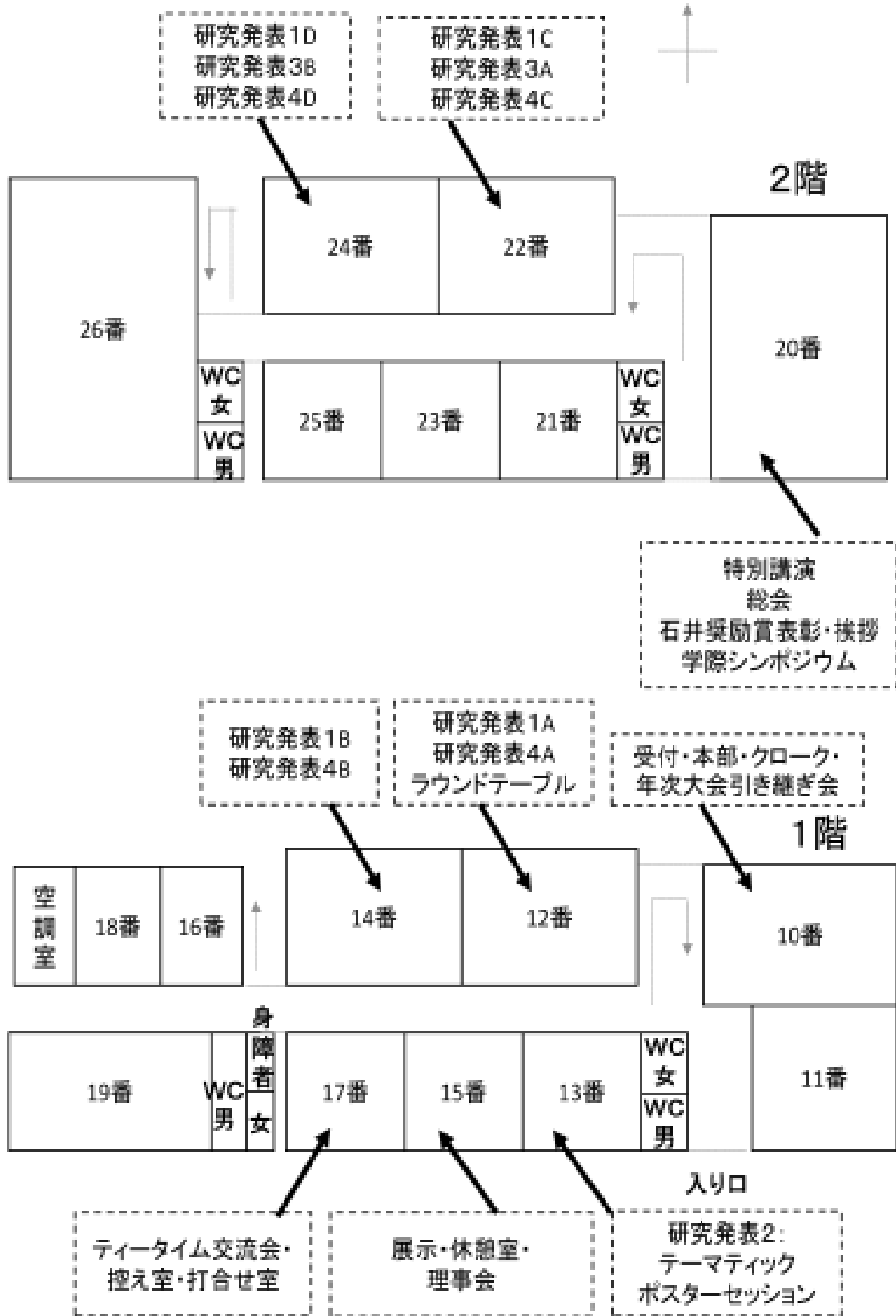
岡山駅 西口	岡大 西門	岡大 西門	岡山駅 西口
7.20	7.27	7.45	7.57
7.42	7.49	8.07	8.19
8.05	8.12	8.30	8.43
8.27	8.34	8.52	9.05
8.50	8.57	9.15	9.28
9.20	9.27	9.45	9.58
9.50	9.57	10.15	10.28
10.15	10.22	10.40	10.53
10.40	10.47	11.05	11.18
11.05	11.12	11.30	11.43
11.38	11.45	12.03	12.16
12.10	12.17	12.35	12.48
12.40	12.47	13.05	13.18
13.05	13.12	13.30	13.43
13.30	13.37	13.55	14.08
13.55	14.02	14.20	14.33
14.20	14.27	14.45	14.58
14.45	14.52	15.10	15.23
15.10	15.17	15.35	15.48
15.35	15.42	16.00	16.13
16.00	16.07	16.25	16.40
16.30	16.37	16.55	17.10
17.00	17.07	17.25	17.40
17.35	17.42	18.00	18.15
18.10	18.17	18.35	18.50
18.55	19.02	19.20	19.35
19.40	19.47	20.05	20.18

2015.9.28 現在

時刻表	
岡電バス 岡山駅-岡山大学西門ほか	<a href="http://www.okayama-kido.co.jp/bus/jikoku.html">http://www.okayama-kido.co.jp/bus/jikoku.html</a>
中鉄バス 岡山空港リムジンバス	<a href="http://www.chutetsu-bus.co.jp/rosen/rimujin.htm">http://www.chutetsu-bus.co.jp/rosen/rimujin.htm</a>
JR岡山駅・新幹線	<a href="http://timetable.ekitan.com/shinkansen/time_table/0006011/6489_1.shtml">http://timetable.ekitan.com/shinkansen/time_table/0006011/6489_1.shtml</a>
岡山空港・飛行機	<a href="http://www.okayama-airport.org/timetable/">http://www.okayama-airport.org/timetable/</a>

# 建物配置図

岡山大学文学部・法学部・経済学部講義棟



# 大会日程

	11/13(金)	11/14(土)	11/15(日)
			8:30-9:00 受付 文・法・経講義棟 【1階10】
9:00		9:30-10:00 受付 文・法・経講義棟【1階10】	9:00-10:40 ●研究 発表4 文・法・経講義棟 【1階12、14】 【2階22、24】
10:00		10:00-11:40 ●研究発表1 文・法・経講義棟【1階12、14】 【2階22、24】	10:40-10:50 休憩
11:00		11:50-13:00 昼食休憩	10:50-12:20 ●学際シンポジウム 「地域をベースに多文 化共生を考える」 文・法・経講義棟 【2階20】
12:00		☆ ランチマップ(当日配布)を参照してくださ い。	閉会・片付け
13:00		13:00-14:10 ●特別講演 「救える命があればどこまでも一多文化世界と繋 がる支援活動の最前線」 文・法・経講義棟【2階20】	13:00-15:00 理事会【1階15】
	13:30-14:00 受付 【図書館】		
14:00	14:00-17:00 ●プレカンファ レンス・ワークシ ョップ 「多文化社会に おける国際協力の 仕事論」 【図書館セミナ ー室】	14:10-14:30 休憩【1階15】 ティータイム交流会【1階17】	
15:00		14:30-16:00 ●ラウンドテ ーブル 【1階12】	14:30-16:00 ●研究発表2 テーマティッ クポスターセ ッション 【1階13】
16:00		14:30-16:10 ●研究発表3 【2階22、24】	
17:00		16:10-16:20 休憩【1階15】 16:20-17:20 ●総会・石井奨励賞表彰・挨拶 【2階20】	
18:00		移動	
19:00		17:40-19:10 ●懇親会 【ピーチユニオン】	

---

# プレカンファレンス・ワークショップ

11月13日(金) 14:00~17:00 会場：図書館セミナー室

---

## 「多文化社会における国際協力の仕事論」

**趣旨:**多文化共生を進めるために必要な技能について、国際協力の現場での様々な事例を基に学びます。

**概要:**プレカンファレンスは、講義とワークショップの2つのパートに大きく分けられます。まず講義では、国際協力・開発の歴史を簡単に振り返り、現在主流となっている参加型開発とは何かにつき、概観します。次に、参加型開発を実践する上で非常に重要な PRA (Participatory Rural Appraisal) や PLA (Participatory Learning and Action) と呼ばれる手法を、具体的な活用例とあわせて紹介し、同時に現場で陥りやすい「ワナ」について説明します。さらに、Rights Based Approach や Inclusive Development といった最新の援助潮流と、こうした概念が生み出される背景にある、国際協力の現場でよく直面する課題や、それを克服するために必要な技能や手法を学びます。

ワークショップでは、PRA ツールの代表的なものをいくつか体験してみるほか、最新の技法として国際協力の現場で広がりつつある対話型ファシリテーション手法につき、基本的な考え方を学ぶ簡単な演習を行います。

**キーワード:**参加型開発、PRA/PLA、Rights Based Approach、Inclusive Development、対話型ファシリテーション手法

**講師:**白幡 利雄氏 (特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構 (AMDA MINDS) 職員)

**講師略歴:**早稲田大学教育学部および同大学院修士課程卒、教育学修士。学生時代は地理学を専攻したほか、手話通訳と障害者運動に関わる。卒業後、シャプラニール=市民による海外協力の会を経て、AMDA 社会開発機構のスタッフに。 Bangladesh と Nepal に計 8 年半駐在したほか、Oxfam America での 3 ヶ月間のインターンや、インド、パキスタン、スリランカ、ガーナでの緊急救援、調査・評価等に従事した経験あり。

**団体紹介:**AMDA 社会開発機構は、岡山県に本部を構える AMDA グループの中で、開発途上国における地域の発展と、人々の生活の向上に継続的に寄与するため、中長期にわたり社会開発事業を実施している特定非営利活動法人 (NPO 法人) です。住民グループの組織強化と活動促進、マイクロクレジットや貯蓄システムの運営支援、診療所、学校、給水システムなどの小規模インフラ整備を行い、母子保健や感染症対策、公共保健機関へのサポート活動を通じて、農村や都市スラムに住む人々の生計の向上と、健康の改善に向けた包括的な取り組みを行っています。

**オーガナイザー:**添田正揮 (川崎医療福祉大学)

---



---

## 特別講演 〈一般公開〉

11月14日(土) 13:00 ~14:10 会場: 20

---

### 「救える命があればどこまでも —多文化世界と繋がる支援活動の最前線—」

**講師：認定特定非営利活動法人アムダ (AMDA) 代表・菅波 茂 氏**

---

**講師略歴：**1946年12月生福山市神辺町出身 岡山市在住。またアムダ、AMDA社会開発機構、AMDA国際医療情報センター、AMDA国際福祉事業団、AMDAインターナショナルから成るアムダグループのグループ代表を務める。1977年岡山大学大学院医学研究科課程修了(公衆衛生学)。1981年5月菅波内科医院開業 (98年4月アスカ国際クリニック に名称変更) 1984年AMDA設立。1990年6月介護老人保健施設すこやか苑開設。以降、在宅介護支援センター、訪問看護ステーション、ケアハウス、特別養護老人ホーム、などを開設運営。2010年6月医療法人アスカ会、社会福祉法人遊々会の経営引退、以後AMDAの活動に専念している。日本医師会国際保健検討委員。第2回国連ブトロスガリ賞(日本人初)他受賞多数。

**講演概要：**AMDA は 1984 年に設立してから 67 の国と地域で 167 件以上の国内外の難民や災害被災者救援医療活動を実施してきている。目的は相互扶助による尊敬と信頼の確立による世界平和への寄与である。AMDA の活動は医師免許の使命にもとづいている。それは「命を助けろ、救え、見放すな」である。これ以上でも以下でもない。

宗教、民族、文化を超えて普遍的な人間関係を共有できるモラルは「裏切らない、騙さない、そして謙虚さ」である。裏切らないとは相手が不条理な状況に陥った時に見放さないことである。不条理な状況に陥った時に人は同じ言葉を発する。「如何してこのような目に会うのか」と。騙す騙さないことはお金のことである。謙虚さとは自分を大きく見せないことである。

日本人の特性を知り他の集団の特性を知ることが「裏切らない、騙さない、そして謙虚さ」を具現化する第一歩である。日本人のモラルは「人に迷惑をかけない、うそをつかない、困った時は助け合う」である。このモラルは世界標準でもなければ、世界最高でもない。それぞれの文化によって価値判断が異なる。自分たちとは異なる価値判断があることや自分たちに理解できない価値判断があることを認識することが謙虚さにつながる。プロジェクトを実施する時に「ローカルイニシアチブ」というコンセプトになる。

AMDA 多国籍団は AMDA 多宗教医師団でもある。多様性の共存を可能にしているコンセプトは世界平和に寄与することであり、コンセプトは「医師免許」、「相互扶助」そして「ローカルイニシアチブ」である。

AMDA の 3 つのコンセプトにもとづく人道支援活動を理解していただければ幸いです。

\*本特別講演は、「岡山大学社会文化科学研究科東アジア国際協力教育・研究センター」の共催で実施いたします。

---

**オーガナイザー：添田正揮(川崎医療福祉大学)**

---

---

# 学際シンポジウム

11月15日(日) 10:50 ~12:20 会場 : 20

---

## 「地域をベースに多文化共生を考える」

**趣旨:**本シンポジウムでは、国内外を問わず様々な多文化共生の取組について、また社会政策・福祉、社会学、教育と異なった視点から、かつ理論と実践を兼ね備えた3名のシンポジストの方に話題を提供していただき、私達が日本で、または自分たちの地域で、どのように多文化共生に取り組むことが出来るかを共に考えていきたいと思えます。

---

### 「北欧における多文化共生—フィンランドを中心に—」

**概要:**多文化共生について北欧各国での歴史や現状は一様ではない。今回は、フィンランド(総人口約540万人)の地域社会における学校教育現場の多文化共生に焦点を絞る。まず、多文化共生に関してのフィンランドの学校教育における課題と対応の変遷を確認する。さらに、最近の事例として、昨今のヨーロッパでの難民問題の展開がどのようにフィンランド社会の各方面に影響しているかを紹介しつつ、地域社会での多文化共生について考察する。

**略歴:**吉備国際大学・教授。京都市出身、大阪外語大学デンマーク語学科卒、外務省勤務(語学専門職)後、フィンランド・タンペレ大学で博士号取得(社会政策学)、島根県立大学などを経て、2006年から吉備国際大学在職(保健医療福祉学部教授、大学院社会福祉学研究科長)。監訳『フィンランド中学校現代社会教科書:15歳 市民社会へのたびだち』(明石書店2011年)、著書『ネウボラ:フィンランドの出産・子育て支援』(かもがわ出版・印刷中)ほか学術論文多数。

高橋睦子(吉備国際大学)

---

### 「関西地域におけるラテンアメリカ系児童生徒の教育現状—ラテンアメリカ人保護者の視点から—」

**概要:**関西在住のラテンアメリカ系生徒が置かれている教育状況を、保護者へのインタビューをもとに考察する。生徒の学校での成功に影響すると考えられる、学業成績、中・高校への進学、授業出席日数、宿題への取組、授業への参加態度、いじめ、差別などの要因を含め実施した半構造化面接から見えてくる生徒たちの現状を明らかにする。

**略歴:**中京大学・准教授。グアテマラ出身。グアテマラ国立サン・カルロス大学卒。大阪大学・人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。初等、中等、高等教育課程で教職に携わると共に、グアテマラに於いて教育省職員、国際協力組織での仕事経験も有する。日本では愛知県、関西地域におけるラテンアメリカ系生徒の研究に取り組む。

フランシスコ・アルファロ(中京大学)

---

### 「在日フィリピン人女性のトランスナショナルな市民社会への参加」

**概要:**岡山県内の在日フィリピン人女性を中心にした岡山倉敷フィリピンコミュニティ(OKPC)の活動について、トランスナショナルな市民社会への参加という観点から報告する。メンバーの多くは、日本人との国際結婚を通じて比較的安定した居住資格をもつが、社会的・政治的には周縁化あるいは排除されている。こうした状況においてOKPCは、自らの活動を通じて、実質的でトランスナショナルなシティズンシップを行使するとともに、地域におけるフィリピン人イメージに肯定的な影響を与えていると指摘する。

**略歴:**岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授。専攻は社会学・移民研究。神戸大学法学部卒、京都大学大学院人間・環境学研究科修了。日本学術振興会特別研究員(PD)等を経て2011年より現職。移住者(在日外国人)支援NGOで勤務した経験もある。

高谷幸(岡山大学)

---

指定討論者: 松田陽子(兵庫県立大学) 企画・司会: 大谷みどり(島根大学)

---

---

## 研究発表1

11月14日(土) 10:00 ~11:40 文・法・経講義棟1階12、14、2階22、24 ○:発表者 抄録頁数

A会場: 12 司会: 石黒武人(順天堂大学)

国際的資質のジェンダー位相—日本の高等教育における国際教育プログラムに着目して—  
嶋内佐絵 (日本学術振興会) 16

学生の異文化コミュニティ参入におけるコーディネーターの役割

○関本春菜(関西大学大学院生)・山本良太(東京大学) 20

Greater Cultural Awareness through Ancient Tales:

CLIL and Mythology in Junior High School English

○Midori Otani (Shimane University)

Dustin Kidd (Shimane University Master Course) 22

---

B会場: 14 司会: 李 洙任(龍谷大学)

Edwin O. Reischauer as a Multicultural Mediator(多文化間メディエーターとしてのエドウィン・O・ライシャワー)

Shoji Mitarai(Sapporo University) 24

「多文化共生」のディスコース分析

田中稜(大阪大学大学院生) 26

浜松におけるブラジル人移住第2世代の発信活動—ライフストーリーの分析から—

近藤大祐(静岡文化芸術大学大学院生) 29

---

C会場: 22 司会: 小坂貴志(神田外語大学)

留学生受け入れ過程にみられるホストファミリーの受け入れ動機の変容プロセス

—高齢者ホストファミリーの事例から—

関根章江(明星大学) 33

留学生の語りから見えてくる異文化適応過程

守崎誠一(関西大学) 35

在日ムスリム留学生の異文化適応スタイル

—2年後の振り返りにみる渡日後の変化に関する認知—

○中野祥子(岡山大学大学院生)・田中共子(岡山大学)・奥西有理(岡山理科大学) 37

---

D会場: 24 司会: 河野康成(立教大学)

日中大学生の労働観に関する比較文化的検討

○奥西有理(岡山理科大学)・田中共子(岡山大学)・シミッチ山下ミラ(岡山大学) 41

バイカルチャー特性を有する個人のコミュニケーション行動

○申知元(青山学院大学大学院生)・田崎勝也(青山学院大学) 43

内向き志向の大学生のコミュニケーション行動

○佐藤広夢(青山学院大学大学院生)・申知元(青山学院大学大学院生)

田崎勝也(青山学院大学) 45

---

昼休み: 11:50 ~13:00

---

## 特別講演 〈一般公開〉

11月14日(土) 13:00 ~14:10 会場: 20

### 「救える命があればどこまでも

### —多文化世界と繋がる支援活動の最前線—

講師: 認定特定非営利活動法人アムダ (AMDA) 代表・菅波 茂 氏

---

8

---

## ティータイム交流会

11月14日(土) 14:10 ~14:30 会場: 17 オーガナイザー: 畠中香織 (同志社女子大学)

### 「ご当地スイーツの午後」

- 趣旨:**果物王国岡山の特選スイーツをセレクト。とろけるような美味を味わいながら、若手の交流をしませんか?もちろん、気持ちの若いベテランも大歓迎です。**事前申し込みのみ。**
- \* 桃太郎のいにしえより知られる伝統のお菓子、きび団子は全てのスイーツコースにお付けします。
  - \* 仕入れの都合上、スイーツの内容が変更される場合もあります。ご了承ください。
  - \* スイーツ、ドリンクの数に余裕がある場合、当日の変更も可能です
  - \* ドリンクは当日、淹れて提供します。
- 

---

## ラウンドテーブル・ディスカッション(若手向けミニ発表会)

11月14日(土) 14:30 ~16:00

**趣旨:**本学会の使用言語は日本語・英語の2言語ですが、現在のところ、英語での発表は少なく、事実上ほぼ日本語に限られています。日本を拠点とする多文化関係学の研究者の声をこれまで以上に世界に届けるために、他言語で発表する機会を増設してはどうかとの声も聞かれるようになりました。このような認識にもとづき、今回はその第一歩として若手研究者(主に大学院生、留学生)が、肩を張らずに英語での研究発表(研究紹介)を行い、楽しく英語で交流をする機会を設けることにしました。

英語でミニ発表をするこの試みは、一般発表とは異なる教育企画です。発表申し込みを締め切った後、シミッチ先生が発表者と連絡を取り、英語での発表に向けて指導を行ってきました。そのプロセスのひとつとして、各参加者が下記のように発表概要をまとめました。本企画の入室は自由ですので、気軽に質問やコメントでご参加いただくようお願いいたします。

会場: 12 オーガナイザー: 八島智子 (関西大学)、シミッチ山下ミラ (岡山大学)

補佐: 武田礼子 (国際基督教大学大学院生)

Qualitative survey of fushugaku in Community-Based Japanese Language Class Centers  
Shunsuke Nukuzuma (Hitotsubashi University) 49

English Language Teaching in Lithuania and Japan:

Prospective Collaboration on Cultural Exchange with the Purpose of Improving English Language Communicative Skills

Irena Miskiniene (Shimane University) 50

Analysis of the Image of Women in China's Talk Show: Using the Show "Her Village" as a Case study

Zhang Xiaohong (Kansai University) 51

Factors affecting international students' attitudes and motivation toward Japanese as L3

Hisayo Mihara (University of Nottingham) 52

---

---

## 研究発表2 テーマティックポスターセッション

### 「留学生とまちづくりの未来」

11月14日(土) 14:30 ~16:00

**趣旨:**魅力と活力あふれるまちづくりの未来を考えるうえで、日本に居ながらにして外からの視点をもつ留学生の存在は欠かせません。文部科学省の「留学生交流拠点整備事業」をはじめ、留学生によるまちづくりへの参加はいま日本各地で展開されてきています。留学生は学

校や企業、自治体等にとって単に支援し、交流する存在というだけではなく、地域の経済活性化や観光振興を担う人材として期待され、自ら地域における交流実践、ボランティア活動、教育支援等に取り組む例も増えてきています。

こうした地域の活性化を推進する留学生の方はもちろん、留学生パワーを取り込んだまちづくりの取り組みを行っている方々と、留学生交流や留学生教育を接点に、大学とまちの将来をめぐってオープンに対話したいと思います。そのために、今回は「留学生とまちづくりの未来」にテーマをしばったポスターセッションを設定しました。会員のみなさまもいっしょに討論に参加しませんか。

**時間:**全体で90分程度(各発表10分程度:質疑含む、総合討論40分程度)の予定です。

**会場: 13 オーガナイザー: 松永典子(九州大学)**

岡山大学と矢掛町江良地区のまちづくり交流

岩淵泰(岡山大学) 55

グローバル人材の育成と地域活性化は両立するか—留学生・日本人学生・地域住民の協働事例をもとに

山田直子(佐賀大学) 59

小学校における留学生との交流授業の意義を考える—留学生、教諭、父兄へのインタビューから—

○松井一美(早稲田大学)・吉里さち子(熊本大学)

板橋民子(立命館アジア太平洋大学) 61

留学生による地域社会参加—留学生はボランティア活動で何を得ているのか—

松永典子・○S. M. D. T. ランブクピティヤ(九州大学)

張曉蘭・柳瀬千恵美・山元庸子・趙一嶸(九州大学大学院生) 63

日本人留学生の異文化間友人関係に関する事例的検討—フランスにおける友人関係形成スキルへの示唆

○鉄川大健(岡山大学大学院生)・田中共子(岡山大学) 67

---

## 研究発表 3

11月14日(土) 14:30 ~16:10

**A会場: 22 司会: 守崎誠一(関西大学)**

戦後ドイツにおける「記念行為」の変遷

—記憶のプラットフォームにおける動的・相関的コミュニケーション—

千葉美千子(北海道大学大学院博士後期課程満期退学) 71

海外における日本語学習による人と社会のエンパワメント—中米グアテマラの事例を通して—

新井克之(九州大学大学院生) 73

ドイツの教育における「複言語・複文化主義」の意義

—『しきいレベル』から『参照枠』に至る過程からの考察—

山川智子(文教大学) 77

---

**B会場: 24 司会: 御手洗昭治(札幌大学)**

外国人滞在者とコミュニティー居場所のありかた—

赤崎美砂(淑徳大学) 79

ヘイトスピーチの法的規制に向けて—日本、アメリカ、ドイツにおける実態把握の現状—

○中川慎二(関西学院大学)・○李 洙任(龍谷大学) 81

スカーフ着用の意味論—イギリスの女性若者ムスリムへのインタビューから—

安達智史(近畿大学) 83

---

**総会・石井奨励賞受賞者(表彰・挨拶): 16:20 ~17:20 会場: 20**

**懇親会: 17:40~19:10 会場: ピーチユニオン**

---

## 研究発表4 <特定課題研究含む>

11月15日(日) 9:00 ~10:40

A会場 : 12 司会 : 抱井尚子(青山学院大学)

外交交渉における対話言説—政治家の「対話のドア」発言に読み解く対話の実現(不)可能性—

小坂貴志(神田外語大学) 87

多文化を背景とするメンバーが日本人のリーダーシップを認知する過程に関する説明モデル—日本社会に存立する多文化ワークグループを対象として—

石黒武人(順天堂大学) 89

“Grassroots” communication, old and new:

Lessons from the Japan-U.S. Communication Improvement Initiative of 1990

Chris Oliver (Sophia University, Junior College Division) 93

B会場 : 14 司会 : 小松照幸(名古屋学院大学)

上海在住の日本人海外駐在員妻の文化変容方略とパーソナル・ネットワーク

叶 尤奇(明治大学大学院生) 95

中国人結婚移住女性の自律学習—地域日本語教室から地域社会への参加プロセスに着目して—

張 曉蘭(九州大学大学院生) 99

多文化社会における移住女性のキャリア形成の枠組みづくり—「中間的就労」を手がかりに—

大野順子(摂南大学) 103

C会場 : 22 司会 : 中川慎二(関西学院大学)

留学生の増加による地域住民の意識の変容—外国人住民との接触と意識に関するアンケート調査から

○板橋民子(立命館アジア太平洋大学)・松井一美(早稲田大学)

吉里さち子(熊本大学) 105

在住外国人と国際交流協会とのかかわりを抑制する要因に関する探索的研究

細越久美子(岩手県立大学) 109

外国人住民散在地域(岩手県)における在住外国人支援をめぐる現状と課題

○吉原秋(岩手県立大学盛岡短期大学部)・熊本早苗(岩手県立大学盛岡短期大学部) 111

### 特定課題研究

D会場 : 24 司会 : 岡村郁子(首都大学東京) 趣旨説明 : 吉田直子(東京大学大学院生)

日本における外国人児童生徒の教育を受ける権利—「不就学」と「外国人学校」の側面から—

奴久妻駿介(一橋大学大学院生) 113

外国人の子どもの不就学問題—少数民族教育における学校の課題からの考察—

田中真奈美(東京未来大学) 115

外国人の子どもの不就学問題—マイノリティの子どもに対する母語・母文化教育支援の課題—

馬場智子(千葉大学) 117

---

## 学際シンポジウム

11月15日(日) 10:50 ~12:20 会場 : 20

「地域をベースに多文化共生を考える」

9